



【本教材のガイダンスと到達目標】

- **対象者：** 神奈川県公立高校入試を受験する中学 3 年生（および指導者・保護者）
- **特に向いている生徒：**
 - 「経度差 ÷ 15」は知っていても、飛行時間が加わると足し算か引き算かで迷ってしまう生徒
 - 「午前・午後」の指定や、日本時間から前日に戻るカレンダーの繰り下げ計算で失点しやすい生徒
 - 日付変更線を越えるときに「日付を 1 日進めるのか、遅らせるのか」が曖昧な生徒
- **このプリントでできるようになること：**
 1. 略地図から標準時子午線を正確に読み取り、「同名（東経同士・西経同士）なら引き算、異名（東経と西経）なら足し算」によって経度差と時差を迷わず算出できるようになる。
 2. 飛行機が移動する問題において、「出発地時間のまま到着時刻を出し、最後に時差を加減する」という一本道の手順で、日時の戻りを含めて正確に立式できるようになる。
 3. 時差からの標準時子午線逆算や、日付変更線の横断に伴う日付の進退処理を、数直線と前日換算（+24 時間）を用いて安定して解けるようになる。
- **推奨する使い方：**
 - **Step 1（理論の整理）：** 第 1 章～第 5 章を読み、時差と日付変更線の「計算ルール」と立式の手順を確認する。
 - **Step 2（自力演習）：** 第 6 章の実戦定着ドリル（全 10 問）を、余白に数直線を書きながら解く。
 - **Step 3（誤答分析）：** 解答解説の「失点パターン分析」を精読し、日時の繰り下げや足し引きのミスを点検する。
 - **Step 4（過去問演習）：** 末尾の「過去問演習優先度表」に従い、時差問題が出題された年度を演習する。

【冒頭 1 分要約：時差問題の真実】

【結論】 神奈川県の世界地理で、時差は「暗算」ではない。「数式と数直線による一本道の処理」である。

① 経度差の足し引きルール

- ・ 同名（東経同士／西経同士）： 引き算（大きい経度 － 小さい経度）
 - ・ 異名（東経と西経）： 足し算（本初子午線 0 度を挟むため加算）
- ⇒ 経度差 ÷ 15° = 時差（時間）

② 移動問題は「出発地時間のまま到着させる」

① 出発時刻 + 飛行時間 = 到着時点の出发地時刻

② 出発地時刻 ± 時差 = 現地到着日時

(※目的地の標準時が出发地より遅ければ引き、進んでいけば足す)

③ 日付の繰り下げは「前日換算 (+24 時間)」を使う

引き算で時刻が 0 時を下回る場合は、あらかじめ「+24 時間」して前日時刻に直せ。

(例：午前 3 時 - 17 時間 ⇒ 前日 27 時 - 17 時間 = 前日午前 10 時)

④ 日付変更線の横断ルール

・ 東 → 西 (アメリカ側 → アジア側) へ横断：日付を「1 日進める」

・ 西 → 東 (アジア側 → アメリカ側) へ横断：日付を「1 日遅らせる」

第 1 章：神奈川県の時差問題は「暗算」ではなく「数式と数直線」だ

1. 15 年中 11 年度 (約 73%) で出題された「時差処理」

神奈川県公立高校入試の世界地理 (問 1) において、標準時子午線や経度差に基づく時差処理は、**2012 年度から 2026 年度までの 15 年間で 11 年度で確認されている。** さらに、時差計算を伴わず日付変更線が正面から問われた 2019 年度を加えると、時差または日付変更線に関する処理は 12/15 年度 (80%) に達する。

出題形式も単純な 1 行計算にとどまらない。

- ・ 正距方位図法や極中心略地図から**経度を自力で読み取らせる問題** (2013・2014・2016・2018 年)
- ・ 経度差から時差・現地日時を特定させる**基本処理問題** (2015・2021・2024・2025 年)
- ・ 飛行時間を含めて**到着時の現地日時を立式させる問題** (2016 年)
- ・ 出発時刻と現地到着時刻から**飛行所要時間を逆算させる問題** (2017 年)
- ・ 時差から相手都市の**標準時子午線を逆算させる問題** (2012 年)
- ・ マゼラン航海などを題材とした**日付変更線の通過に伴うカレンダー処理** (2019・2023 年)

これらすべての形式で失点を防ぐ鍵は、頭の中の感覚で足し引きせず、「東西の数直線を描き、機械的な立式手順に従って計算すること」にある。